

第12期 松戸市緑推進委員会
第6回 委員会

1. 日時 令和5年7月21日(金) 15:00~17:00

2. 場所 松戸市役所 市民サロン (新館5階)

3. 出席者

○緑推進委員

柳井重人・木下 剛 (オンライン)・高橋盛男・藤田博美・藤田 隆・榎谷有三・並木能子・
河野芳久・増木宏行

○松戸市

中野貴弘 (公園緑地課課長補佐)
飯沼 修 (21世紀の森と広場管理事務所所長)

○兼事務局(みどりと花の課)

三末容央(課長)・木村高德(補佐)・木原 茂(補佐)・中山 茜(主査)
・木城 拓也(主任)・岩田 昇(主査)

○松戸みどりと花の基金

福田勝彦 理事長
田辺久人 事務局長

○傍聴 1名

事務局より本委員会の成立について、委員人15名中9名の出席により成立している旨報告あり。

4. 議事次第

1 開会

2 議事

- 1) 議事要録の確認
- 2) 第12期緑推進委員会テーマについて
- 3) みどりのサロン部会からの報告
- 4) その他

3連絡事項

4閉会

議事1) 議事要録の確認について

会長

事前に送付した議事要録について異議はあるか。

無ければこれを以て議事要録とする。

——承認——

議事2) 第12期緑推進委員会テーマについて

会長

議事2、第12期緑推進委員会テーマについて、事務局から説明をお願いします。

事務局

まずお手元の資料の確認をさせていただきます。

資料1として、前回の緑推進委員会テーマの議論について

資料2として、みどりのプロモーションコンセプト

資料3として、市役所内メディアチャンネルについて

資料4として、ペルソナ一覧表

資料5として、ぷらっと 子どもの森 写真報告書

追加資料として、みどりのフォーラム準備報告

以上となります。

資料1をご覧ください。前回の委員会の議論をまとめたものになります。

前回の議論では、ペルソナをいくつか設定してそれに向けて、順番に発信していくような形でプロモーションの手順を進めれば、無理なくできるということで、幅広い市民を対象にプロモーションの戦略を作っていくことが決定しております。

戦略を作成するところと別に、一回プロモーションにトライアルして、その結果を戦略にフィードバックさせるということが、戦略的に大切であるということなので、トライアルでプロモーションを実施するということとの二本立てで委員会を進めることになっております。

そこで前回の委員会での事務局及び各委員様にはそれぞれ課題が設けられております。

事務局は、みどりのプロモーションコンセプトたたき台の作成と、市役所内メディアチャンネルの調査について、緑推進委員会の皆様におかれましては、ペルソナの設定でございます。

資料1の裏面をご覧ください。

裏面は前回委員会での発言などを抜粋しております。

まず、市のホームページに、一般のホームページのリンクを貼れるかというご質問がございましたが、結論として可能でございます。

松戸市のサイトポリシーがありますので、そちらに則ればリンクを貼ることができます。

実際にみどりと花の課のホームページから外部のオープンフォレスト実行委員会のページにリンクを貼っています。また、中段の「前回委員会の資料1 検討事項についての意見」につきましては、各自ご確認をお願いいたします。

会長

資料1について確認になります。前回の議論したことについて振り返りたいと思いますが、書かれていることについて抜けてるとかありませんか。

オープンフォレスト実行委員会のリンクについて、スクリーンをお願いします。

これが実行委員会のページですね。「外部リンク」と表示すればいいということですかね。

フェイスブックとかのリンクでもいいのでしょうか。

事務局

松戸市のポリシーに沿っていれば、大丈夫です。

会長

資料1に関して、見ていただきましたが、よろしいですか。
今回この会議で、どこを議論しなければいけないというのがありますか。

事務局

今回につきましては、シティプロモーションの基本的な考え、コンセプト、メディアチャンネルの確認、各委員様に宿題で出していただいたペルソナ。
このあたりかと思います。

会長

それぞれ説明していただいて、それについて意見を交換して、今まで詰めてきたところについて、例えばペルソナの設定をもっと明確にするとか、プロモーションはこのイメージでいいかとか、そういうことを議論して一定の方向性を決めていくことでよろしいですかね。

事務局

事務局で考えたのは、まずプロモーションのコンセプト、そちらの方を決めないと今後どのような方向性とするか設定する際に固まってこないの、まずはそれから緑推進委員会で議論いただきたいと思います。

会長

わかりました。
それについての資料がありますので、説明をお願いします。

事務局

それでは資料2をご覧ください。
みどりのプロモーションのコンセプトのたたき台を作成するに当たりまして、コンセプトを作るだけではなく、それを外部に発信することが大切かなと思いました。
前回のいろいろなご意見につきまして、市民の方にイメージしやすい形の方がいいのではないかなと思いましたので、コンセプトブックという形でまとめさせていただいております。
なるべく文字は少なめにして写真で表現できればいいかなと考えております。
まず1ページ目は、表紙になります。コンセプトブックということで、A4の二つ折りでA5タイプとなっています。各ページの左上に何を記載するかが書いてあります。
みどりのプロモーションコンセプトブック（vol.1）となっていますが、これは今後冊子をふやしていきたいとの考えによるものです。
それでは1ページ目をめくってください。
こちらは、緑推進委員会が、何を目的として、何を志しているかを、表現させていただきました。
左側には緑推進委員会がプロモーションで何をやるかということを端的に「みどりと豊かな暮らし

しを提案し発信する」と。その下に「みどりは暮らしに豊かさをもたらす多くの機能があります」と書いて、ちょっとした説明を加えています。右側のページですけども、こちらは目的を一言で、「みどりの基本計画の実現」としております。写真につきましてはイメージを載せています。

次のページをご覧ください。

こちらのページでは、情報発信になります。情報提供することによって、一体どんな価値があるのか、どんなことが生まれるのか、というところを記載させていただいております。

左側に「私たちは7つのみどりのあるライフスタイルとして提案し、実践するきっかけを作ります。」と記載しています。

緑推進委員会では、みどりのシティプロモーションを実践するということを記載しております。

右側の方ですけども、こちらはみどりの基本計画で、7つのライフスタイルが提案されていますのでこちらのライフスタイルが「こういった形でできます」というのを端的に記載しています。

次のページから2ページにわたって、実際に具体的な提案をしています。

右側の写真は、何もないとイメージできないので野菜の写真を載せています。

みどりのライフスタイルに関する提案を定期的にすることによって、ボリューム1、ボリューム2、と増えていくイメージになっています。

こちらで提案された内容につきましては、こちらのページから関連情報や動画のリンクを載せることも考えています。

こちらに記載してあることは簡単に書いただけですので、参考としていただければと思います。

次のページは、みどりを探して出掛けようというイメージになっています。

次に緑推進委員の写真紹介など書いてありますけども、事務局側としては、この冊子を誰が作ってるのかなとか、そういうところが見えた方が市民の皆様の方に伝わりやすいと思いましたので、写真に一言添えるページを考えました。

次は、冊子の意義を再確認するためのの言葉となっています

そして最後に裏表紙となります。

こちらはたたき台ですので、これからいろんなご意見をいただいて、内容、中身を作っていければと思っています。

このまま資料3の説明をしたいと思います。

資料3につきましては、前回の委員会で、松戸市の中にみどりと花の課が使えるメディアチャンネルがあるかということでもまとめさせていただいております。

1ページ目ですけども、松戸市公式ツイッターです。フォロワー数は約6万人、全世代の利用率は約46%のソーシャルメディアとなっております。

ツイッターの大きな特徴として、情報をリツイートすることができますので、情報がどこまでも拡散されることがあり、いわゆるバズるという現象でございます。

記載できる内容ですけども、文字数が140字以内、動画については140秒以内となっています。

こちらについては、広報広聴課へ掲載依頼をして繰り返しアップすることが可能ですが、繰り返しの限度は週に3回となっています。

次のページは、松戸市公式フェイスブックでございます。フォロワー数は3600人、全世代の利用率は約33%となっています。記載できる内容は、文章と画像で、こちらは文字数に制限なく長文の記載ができるようになっております。

こちらも広報広聴課へ掲載依頼をして掲載することは可能ですが掲載は原則として週に1回までとなっています。

3ページ目をご覧ください。

こちらが松戸市公式ユーチューブチャンネルです。全世代の利用率は約90%の動画の専用チャンネルとなっております。しかしながら、松戸市の公式ユーチューブチャンネルにつきましては動画再生回数が厳しいと感じています。掲載できる動画は2分から5分でございます。

こちらも広報広聴課に依頼して、松戸市の公式チャンネルにアップロードすることができます。最後に、松戸市公式ラインの（まつどDE子育てLINE）でございます。

こちら括弧書きでわかる通り、子ども政策課が所管しており、掲載できる内容は現在、子ども部の情報のみとなっているとのことでした。

現在、他部署からの申請を受け付けてないということでしたが、みどりと子育てに関わるものについては、掲載へ検討の余地があると回答をいただいています。

続けて資料4です。

皆様に作成していただいたペルソナの資料でございます。

1ページ目に一覧表がございまして、それ以降、皆様に作っていただいたペルソナのシートになります。

それと一緒にないもので、A3の2つ折りになっているものが、皆様のペルソナシートの内容を一覧表にまとめさせていただいたものになります。

少し時間をとりますので、ペルソナの内容のご確認をお願いいたします。

会長

この並びは若い順でしょうか。

事務局

そのように整理しています。

後ろの表も若い順で左が若い方になっております。

確認の方はいかがでしょうか。

以上が説明となります。本日はみどりのプロモーションコンセプトとプロモーションのターゲットなどについてご審議をお願いしたいと思います。

会長

まず単純な質問から受け付けたいと思いますがいかがでしょう。

委員

このコンセプトブックは緑推進委員会の業務、事業のコンセプトブックでしょうか。

事務局

シティプロモーションのコンセプトブックになります。プロモーションを進めていくので、緑推

進委員会の名前があった方がいいと考えました。

委員

一般的なコンセプトブックではプロジェクトに関わる人に向けて作成して、それを基にプロジェクトが展開されるものになるが、このプロモーションはコンセプトブック自体がアウトプットになるイメージでしょうか。

事務局

このコンセプトを作るにあたっては皆様の考え方が同じ方向を向くような形で、資料を作成して運用していきたいと考えましたが、これ自体を外に向けて発信してもいいかなと思いました。

委員

コンセプトブックを基にしてプロモーションが、メッセージとして外へ出ていくというのは面白いかもしれないですね。

会長

認識を共有するから1、2、3、4、というよりかは、僕らが共有することで、それをベースに、何か発信するイメージでしょうか。

共通認識をまとめる意味のコンセプトブックと、広報の媒体としての冊子というのは、どのような関係になりますか。

事務局

コンセプトに当たるところが

1ページ目、2ページ目、3ページ目、こちらが「このようなコンセプトでプロモーションをしていきます」という普遍的なものになります。

常に情報発信していけるよう、その時期に合わせた提案があれば、それを追加したり差し替えたりしていくという案になります。

委員

プロモーションコンセプトについて、これはプロモーションの目的があって、それを達成するための具体的な概念がその下にある考え方でしょうか。

それとも、もうちょっと別なものでしょうか。

事務局

「緑推進委員会は、みんなでプロモーションを進めていきますよ。」というのが大前提となりまして、第11期からの引継ぎ事項として、みどりの基本計画が一般的には分かりにくいので、もっと広報していきましようとなっています。

コンセプトは豊かな暮らしの提案を市民の皆さんへメッセージとして届けたいというものになっています。

委員

いただいた資料の中で目的というのはみどりと豊かな暮らしを市民の皆さんにお届けし、共感を得ることでみどりのファンを増やす。そのためにどうするかを今、考えていく。そういう理解でよろしいでしょうか。

会長

3ページ目までが、コンセプトとして大切にしたいこと。4ページ目以降はプロモーションに「こんなネタがある」といった例で、本当のコンセプトブックがこの3ページ目までで、外に出していく冊子が4ページ目以降の内容と考えてもいいと思います。

委員

7項目はみどりの基本計画でみどりのある多様なライフスタイルの実践で挙げられてるものでしょうか。

会長

みどりの基本計画は、皆さんご覧になって分かる通り、膨大な計画事項、施策、がありますが、プロモーションに限って言えば、暮らしとの繋がりでプロモーションしたい。その暮らしという観点が、みどりの基本計画で7つ示してあるので、そこを発信して大切にしたい。このみどりの基本計画を作っている時から暮らしを大切にすることを考えていましたので、そこも繋がると思います。

委員

基本計画の110ページとか111ページ以降に書いてあることが最初のプロローグとしてあって、それから具体的にブレイクダウンしていくようなイメージでよろしいでしょうか。

事務局

そういう意図で作っています。

会長

緑推進委員会の発信でいいでしょうか。

委員

例えばこれが、役所のメッセージとして出た時に面白さがどうかと思います。僕らはみどりを訪ねたまち歩きツアーをしています。この中にある「パン×みどり×ラン・サイクル」なんかは面白いと思いました。前に提案したことがあるんですが、なかなかグリーンツーリズムが根付かないって言うところに、面倒くさいプログラムを作らないで、ただ景色を眺めて歩くだけ、その途中で例えばどこかの畑で収穫できたり、どこかの森の中で休んだりできたら面白いし、それだったらいろんな人

を引っ張り込める。こういう発想から考えると、実施主体も松戸市でもいいですが、例えば暮らしの森会議、そういうようなところと一緒にこれをやっていくというような表現の仕方がいいのかなと思います。

会長

コンセプトブックという形でまとめてありますが、3ページ目までは緑推進委員会の中で、こんなことを大切にしていこうよという同意をしておくだけで、後半は、暮らしの森会議、遊びの森プロジェクト、そこから発信していくのが見えた方が、面白みがある気がします。

この3ページ目までは、ここで何を大切にしたいかっていう共有の話しですので、後ろの方が気になります。発信が緑推進委員会では面白くないし、松戸しみどりと花の課でも面白くない、ジョイントするところがあれば、そこも一緒に並んで発信していく方がいい。

3ページ目までのコンセプトに基づいた発信をしていきたいと思いますというところは必要ですが、誰がこれを発信してもいいと思います。

誰が発信の主体になるかによって、最後の顔写真も変わると思います。花壇ネットワークの発信であれば花壇ネットワークの写真になたりすると思います。

私の方から提案ですけど、3ページ目までのみんなで共有する部分に「松戸みどりの市民憲章」として、「松戸市民はみどりと暮らす豊かさを大切にします。」「千年来のみどりの声に耳を傾け、百年来のみどりを育てます。」「子どもたちの夢とあそびを受け止めるみどりをいっぱいにします。」という緑と花のフェスティバルのテーマにもなっている言葉がありますので、こちらを記載してはいかがでしょうか。

委員

案では子供の写真が多い気がしますが、豊かな暮らしを提案する発信で使う写真は特定のところに偏らない方がいい気がしました。

事務局

今回の写真については、とりあえず手持ちであったものを使っているの、その辺についても、この場で議論していただくと事務局の方もそれに沿ったような写真を選べるかなと思います。

委員

写真から受けるインパクトが強いから、写真をどうするかは大事なところかなと思います。

会長

3ページ目までは何を大切にしたいかという内向きのイメージなので、あまり意識しなくてもいいと思いますが、4ページ目以降はペルソナの設定との関連性が出てくると思います。

委員

松戸みどりの市民憲章の話ですが、これは平成16年10月1日に制定されて我々が大切にしていかなければならないことなので入れて欲しいと思います。それに加えて新しいみどりの基本計画の

コンセプトが入っているというイメージを持ったので、共通認識するものとして入れた方がいいと思います。

委員

目的の一つとして松戸のみどりの価値を知ってもらうことがあるんですけど、もう一つはみどりの基本計画を知ってもらう。最初の4ページまでの部分はこれと密接に関わっていて、何を実現したいかっていうとこれなんだろうという気がします。ですので、これとイメージ的な関連付けをしたい。それから、例えばこの文言は、「みどりの基本計画のどこにあるんですよ」というのをこの下に付けると関連付けができると思います。3ページ目までの前半の部分はそれが大事なかなと思います。4ページ目以降の後半部分についても全部入れていけるといいと思います。

会長

全体の考え方として、みどりの基本計画の表紙にある「みどりと暮らす。」「松戸に暮らす。」「豊かに暮らす。」という一つの考え方が、みどりの基本計画の中にあるし、それ以前には、松戸みどりの市民憲章があった。

松戸のみどりの基本計画の中で7つのライフスタイルを大切にしているので、そこらを整理するのか。

一つの方法として、思い切ってどこかを抜いてしまうのもあり得るかなと思います。

今日のところはそれを決めるということではなくて、プロモーションする中でどう位置付けていくかを考えなければいけないという認識を共有できればいいと思います。

委員

先ほど前半部分の7つのライフスタイルについて、コンセプト部分に相当するという部分と、そのあとの身近にみどりのある暮らしとか、みどりのあるところに出掛けようという、いろいろな提案とか取り組みとかがイメージとして出てくると思います。

複数のライフスタイルに当てはまってくることもあると思うので、その7つのライフスタイルのどれに当てはまるか、7つのライフスタイルをアイコン化してみると分かりやすいと思いました。

前半部分はできるだけ人とか、団体にスポットを当てて、その人たちがどういうみどりのある暮らしをしているのか、里やま応援団でも、この緑推進委員会のメンバーのどなたかでもいいと思います。

何かそういう一コマを差し支えない範囲でご紹介いただくとか、こういう場や空間を見せるにしても何か、人を介してスポットを当てて見せると、割と取っつきやすいかなと思いました。

会長

前段の部分は、具体的にそういう冊子を作る時の、こうやると繋がって見やすいよという、技術的な話しも含まれていたと思いますが、後半部分の話しにあった、人を介した発信については緑推進委員会の紹介みたいなものを入れたいという事務局の発想に近いと思いますがいかがでしょう。

委員

この7つの項目は、イベントをやるとしても重複すると思うのでSDGsのように分かりやすい方がいいと思いました。

それから後ろの方では、いろいろ身近にあるみどりの暮らし、みどりのあるところに出かけよう、松戸のみどりを探そう、とありますが、例えば、憩うことに関連づけたプログラムを、いろんな形で出していくと、いろんなものと重なって何冊もできてきそうな感じがします。

1つの手法としてわざとずらしたテーマにする、憩うにしても食べるとかがかぶってくるんですよ。憩うをコンセプトにして、そのプログラムや提案をメッセージブックにする。今度は食べるということになると、今度はファンとみどりみたいなものが出てくる。

会長

結果的には全部いろんなところにかぶるものができるということでしょうかね。

テーマ性は分かりやすくなる気がします。

委員

先ほどの顔写真に合わせて、その人の思いも発信すると共感しやすいと思いました。

みどりに対しての思いや、普段の活動への感想などの言葉があった方がよりいいと思いました。

会長

過去の議論でも共感できることが大事という話がありましたのでポイントになると思います。

生の声をうまく拾って整理していくのもいいかもしれないですね。

コンセプトブックのコケなどは、どんなイメージで入れたのでしょうか。

事務局

先日のオープンフォレストに行ったときにコケが綺麗だったのと、コケを楽しんでいる人にも発信していきたいと思って取り入れました。

キクラゲについては実際にどこでもあったので、実際に食べるのは勇気がいると思いますが取り入れています。

島らっきょうは簡単に育てられるので親しみやすいと考えて取り入れています。

会長

例の2は、カブトムシを見つける×里やまとか、暮らしの中身みたいな話と場所を関係づけたりするんですけど、これはまた違うイメージで作っていますかね。

事務局

こちらは先ほどお話があったように、自分が案を作る中では、ここはいろんなところの情報を載せたいと考えました。みどりの関連する他の団体の情報とか、ご紹介とかも視野に入れて作っています。

みどりの中で食事とか、上の写真はこの前のオープンフォレストに喫茶店が来てテーブル出して食べることが出来ましたので、その写真になります。

会長

そういう意図がここに隠されてるわけですね。

委員

エディブルウェイですと大分ポットが増えてきているので、たどっていくと松戸の東口かいわいの街歩きができます。

もう20年近く前ですけど、鎮守の森の樹木調査図鑑を作った人がいるんです。松戸市内の10の神社の森を全部調べて図鑑がこんな分厚い、それを持っていると神社めぐりできるので、神社めぐりが趣味の人にはすごくいいとか、そういう結びつけ方をするといろんなものが出てくると思います。

会長

ポイントは、みどりだけでやっているのではなくて、他の分野なりとの接点を探らないと広がらない。だから暮らしとかを入れたりしていると思いますので、こういった里やま×何とか。実際に里やま×ヨガ、里やま×子供の遊びとか冒険遊びみたいなことはやっているの、周辺分野と繋がっていることを考えれば、これを作ることをきっかけにそこと繋がっていくっていうことも、そういった「緑緑」してる部分だけではなくて、少し周り、つながれるのもいいかなと思います。エディブルウェイでは剪定枝を使ってトムテという北欧の農家の手助けをする妖精を作ってプランターに挿しています。

こういったものは、森で出たものと花とエディブルと、森のみどりが、別の領域と重なったからできるものかなと思います。

そういうのも意識の中に入れとくといいと思います。

この最初の1ページから3ページには、今言ったようなものが方針として、このコンセプトブックの中には表現しないけど、何を大事にプロモーションしていくか、人の顔が見えるとか、生の声とか、異分野との接点とか、直接は出ていかないけど、ここで共有しといた方がいいかなというのがあるのかなと思います。

無理やりコンセプトブックの形にしてしまうと、今みたいな話はしにくくなるかもしれませんね。イメージ的にはvol1、2と増えていくところが、ホームページとかに、いろいろリンクするということですか。

事務局

こちらに関連のページですとか、関連の情報のリンクがあると。そうするといろんな情報がどんどん機会を作ってくれて目にすることも増えるとイメージしています。

この冊子自体に年代を決めて、子供向け、お母さん向け、そういう違いをつけて発信していても、中身の写真が変わって、みどりの楽しみ方でカタログみたいなものになるイメージも持っています。

会長

これをやっていくと松戸のみどりの楽しみ方のカタログみたいなものが出来るのは面白いですね。ペルソナの話が出たので、このプロモーションのイメージとか、プロモーションとの関係、写真もそうですけど、こういうところを考えていこうと思います。

前回の議論は、1回子育ての方に行きかけましたが、もっと幅広い年代を対象にしようという話になって、もうちょっと具体的に個人のイメージを膨らまして、そこにどうアピールできるのかを考えるために、このペルソナを皆さんに作っていただきました。

私もとても興味深く拝見させていただいていますが、触ってみて気づかれたこととか、こういうイメージの設定ってというのがあるんじゃないかとか、ご意見いただければと思います。

皆さんの考えてらっしゃる年齢層ってというのが、意外に似ているようにも感じられるのかなとも思います。

今日は絶対これにすると決める状況ではないので、このあたりがターゲットとなるということをグルーピングしていければと思います。

1番の子供は他の人とは全く違うので、1は1という気がします。他の設定からは確実に独立してるので、これはこれで1つのグループだろうなという気がします。

学生さんというのも明らかに他と異なりますかね。

委員

学生という立場では、みどりを使うのではなく、運営していくことに参加していることが多いと思います。学生なので短期間ではありますが、学生のうちに運営していく場は貴重な体験ですし、社会人になる前に経験したいと考えている学生は多いと思います。

その選択肢の1つとして、みどりの活動に関わるものがある。プロモーションの対象として、みどりを利用してもらう側だけでなく運営サイド、サポートサイド、も対象になりえると思いました。学生なので一時的ではあるけど入れ替わりを繰り返して継続していくこともあるのかなと思っています。

会長

緑推進委員のところに、うちの大学の学生がインターンで関わったりしてますがいかがですか。

委員

学生だけじゃなくて20代もそんな感じでとらえていいと思いました。20代は社会に出て間もないので、なかなかこういう市民活動に参加しにくい土台がある。

例えば会社でやっている業務やプロジェクトみたいなものについての1つアウトサイドでの体験の仕方みたいな関わり方はあるのかな。今の学生は結構大学出て、社会人になって、正規社員になって、働いているけどお勉強するんですよ。会社の業務の枠組みを超えて勉強会開いてということも結構やっている。

会長

確かに松戸市の例で言うと、どこでもシアターは元々学生時代で手伝っていたうちの部屋の学生とか芝浦工大の学生さんとかが、働き出してOBになっても、実はサポートメンバーで顔を出し

て、いろんなことを運営として手伝っているんですけど、そこでまた会えた、みたいなことをしています。

確かに学生って限らずに、運営サポートサイドみたいなところで、20代中盤から後半っていうイメージはあるかもしれないですね。

委員

今回幅広い年齢層の方が提案されていますので、それぞれの年齢層や性別に当てはまる方で、みどりのある暮らしを实践されている方がいらっしゃれば、それをこのコンセプトブックで紹介したりすると、相乗効果があっていいなと思いました。

会長

ペルソナ設定してそれに近い方に取材して、なんなら巻き込んでほしいな。そういうやり方はあるかなと思ってます。

委員

私は4番目のペルソナになります。

これこちらのシートにも書いてありますが、この年代を取り上げた理由は、基本計画の中に書いてあったアンケート調査で30歳までの世代が、みどりに対する認識が低いというのがあります。そういった人に対して、「松戸にみどりがたくさんあるんだよ」と、そういったメッセージ性を高める意味で、この世代を取り上げたということが1つ背景としてあります。この男性は28歳、年収の設定なんかも、これが妥当かイメージなので不安ではあります。

会長

30代から40代にかけて、これは子育てっぽいところですかね。

委員

私は8番ですけども、もともとの考え方が基本計画の中の、基本方針と目標が4つに分かれてまして、4番目のみどりのあるライフスタイルを楽しむという分野で考えるとどうかなっていうので考えてみました。

基本計画の中でのアンケートで、みどりが少ないと感じている年齢層は若い人。18歳から30歳ぐらい。次いで40歳から50歳。そのつぎは下がってきて30歳から40歳とブレてるので、そういったみどりが少ないと感じている年齢層を1つのターゲットにしてみたらどうかなと考えて幅のあるものになっています。なので、例えば家族構成は、大体ざっくり小中学生じゃないかなとなっています。

委員

まず晩婚になってきたので、一番最初の子供が大体もう30過ぎてる。保育園や幼稚園に通うようになるのと、もう34.35歳。小学生くらいだと40代となってくる。

森でイベントやって来てくれるのが、保育園の年中ぐらいから小学校低学年ぐらい。そういう子

供とみどりを触れさせたいというようなニーズの熱いところはそこらへんだと思います。それからさっき20代の話にあったようにその前の世代は、むしろ直接みどりに触れ合うというよりは、まだみどりが目に入っていないと思うのであんまり気にかけてないっていうか、多分アンケートで意識が低いとか少ないって感じているのは、実は見えてないことも関係あるんじゃないかと思います。

40代まできついですけど、50代に入ってくると、今度は自分の子供のことは、ほっといてよくなっていく。そうなる则ち他の子の面倒見ようという人が出てくるわけです。

なんかそこら辺りの三層がそれぞれ違ふカラーだと、プレゼンテーションしていく余地があると思いました。

会長

ちっちゃい子供がいる世代と、その前世代。子供が子育てから離れてた世代。となりますか。

委員

その前世代というのは未婚で、大学生とか新社会人の世代になります。

ペルソナを3つぐらいで設定していく話しもあったので、そのように考えている。

3層の内訳は、ドンピシャで子育てしている世代。みどりが目に映っていないその前世代。子供が手離れした世代。ということイメージしています。

委員

私の考え方も似ていますが、50から65という年齢の理由として、みどり基本計画の中のみどりの市民力を豊かにするという分野、それを考えていくと、その予備軍となっている人達は、大体、自分の経験からしますと、50から65ぐらいまでで、仕事をやめたりして、時間的な余裕ができると少し足を運んで、何らかの形で貢献したい。と、そんなことが出てくる。

そういった予備軍というものを考えてみるのもいいと思いました。

委員

すごく賛成です。例えば里やまボランティアの場合を考えると、里やま入門講座に入ってくる人達は定年して、その後から何しようかな、と入ってくる。

今は再雇用でその年齢が上がってるので、その前の世代の50代ぐらいから取り込まないとなかなかむずかしい。

「そこからあなたの第2の人生の生きがいが始まるんだよ。」としないと里やまだけに限らないけどこういう市民活動は入ってもらえないかなと思っていますので、この世代がすごく大事だと思います。

委員

子育てとか、仕事が忙しい、自分の時間のバランス、などの悩みとか。平日は何をしているかとかの生活サイクルを正確に把握できれば、これの時間が取れる

みどりのプロモーションをしていく中で、いくつかの行動が出てくると思いますが、こんな悩み

があって、こんな感じに時間がある人に、こんなアプローチをしていこう。と詳細に作り込める
といいと思います。特に30代40代は時間が限られているので、短い時間をうまく使う、使える必
要があると思いました。

会長

今の議論を整理して、いくつかペルソナを設定する上で、こうやって出してきていただいたやつ
も含めて、何となくこの辺をターゲットにするために、こういうペルソナを設定しようっていう
のが出てきたと思いますので、今日の議論を整理していただきたいと思います。

これは引き続き今日の議論を整理していただいて、検討したいと思います。

それから資料3に関しては、これはプロモーションのツールとしてうまくリンクできそう、という
のと、普段の皆さんの活動もルートに載せれば掲載してもらえる。

委員

里やま入門講座のアナウンスは、ほぼ松戸市のホームページだけになっています。

会長

今日は一応資料として、載せられることが分かりました。

議事3) みどりのサロン部会からの報告

会長

こちらにつきましてサロン部会よりお願いします。

委員

サロン部会を先月27日に開きました。

みどりのフォーラムを11月に開かれる「遊びの森in囲いやま」というイベントと同時開催で金ケ
作育苗圃でやろうと考えています。今は可能なのかどうか当たりをつけている状況です。

遊びの森の実行委員会が今月の30日にありますので、その時に日程がはっきりします。

今のところその実行委員会の準備会が、大方このぐらいの時期がいいんじゃないかとして候補で
出しているのが、11月19日、もし雨天の場合は、23日の祝日を使うというものです。

金ケ作育苗圃を改善しようという研究を柳井会長のところの研究室でしています。リニューアル
計画を作っていて、そこにあの場所を開放的にしていこうという意図もある。しかも新しい、研
究拠点でコミュニティ拠点でもあるという温室ができるので、そうすればうまく使えるんじや
ないか。

遊びの森は120くらいの親子が来ていますので、それをみどりのフォーラムへ引っ張り込みたいと
考えています。

時期的なところはどうであれ、柳井会長の研究室の施設ができているのであればそこで、柳井会
長の研究室と共同していきたいと思っています。

コンテンツについては今ざっと考えているのが、緑フェスの時に使っている里やま応援団、花壇関係、みどり関係の団体、のプレゼン用のパネルが30枚近くありますので、それを全部使ったプレゼンテーションと、それからこの2番目の育苗圃とその周辺の緑地をめぐるガイドツアーを考えています。僕らが緑ネットでやっている緑の再発見ツアーのフォーラム版になります。

みどり関係以外の、例えば街づくりに関わってる人たちとか、さっき言ったようなみどりに目が向かない世代とか、その辺をどういう対象にするかこれから決めていくんですけど、そういうところを呼んで、金ヶ作というところのみどりの資源を見たらどうかと。その上で育苗圃に行つて、どんなワークショップにするのか。全然考えてないんですが、何か意見交換なり、ワーキングなり、ができればいいな、みたいなことを考えています。それから、ティールームと子どもの遊び場っていうのは、遊びの森実行委員会準備会の時に、「いくら向かいといっても、なかなか遊びの森の来場者は遊びを目的に来てる人だから、何かないと行ってもらえないよ。」と言われましたので、こちらも遊びの要素と、ハーブ園にちなんで、あったかいハーブティーみたいなのがあれば行ってくれるじゃない。という話があったので、検討しよう思っています。

それから運営体制については遊びの森実行委員会と連携して進めていく。

育苗圃及び周辺の緑地で活動する団体への参加要請については、ハーブボランティアとはこの間話をしてきて、参加協力を前提にして検討をしてくださるそうです。

それからボランティアの中にドライフラワーのブーケを作ったりすることが得意な方がいるそうなので、そういうことなら温室内インテリアもお手伝いできるかなっていう話がありました。

それだったらフォーラムと分けてやってもらってもいいと考えています。

花壇づくりネットワークの方は、藤田博美さんが花壇づくりネットワークの方にお話をしてくれていて、ちょうど他のイベントと重なるらしいんですけど。どう協力できるか検討いただいています。

委員

子供の遊びという視点から協力を考えています。

私たちは緑と花のフェスティバルの時に花を配ると同時に子供用にゲームをしています。輪投げやグランドゴルフとか、そういう道具は高橋会長が持っています。

11月19日ですと高橋会長は出席できますが、雨天で11月23日になると大農業祭と重なってしまうので、花壇づくりネットワークとしてむずかしいと思います。

19日の場合は私が重なりますが、高橋会長は大丈夫だと思います。

委員

23日となった場合は、その場でまた考えることになると思います。

会長

金ヶ作育苗圃について、一応は私が代表にはなっていますが、木下先生の研究室にも参加していただいていますし、園芸療法とかをやってらっしゃる岩崎先生と、3つの研究室でやっています。

みどりのフォーラムは遊びの森in囲いやまと同時開催で、まだ一体として使われたことがない金ヶ作育苗圃も含めてフォーラムをやる、コンテンツの案はこうなっています。と、というような感

じの方向で進めていいかということです。私個人的にとってもいいかなと思っています。ちょっと説明しますと、千葉大でやっているのはさっき言った私と木下先生と岩崎先生の3つの研究室で、それぞれ得意分野を生かしてやろうということになっています。私のところはここでやってみようというサロンとか、どういうふうに将来マネジメントしていくのか、市民の人たちに参加してもらいたいイメージのことなどを中心にしています。それから木下先生は雨庭、レインガーデンとかの庭を実際に作って、それを普及できないかというようなプランがあったりします。岩崎先生は、ハーブを活用して何かできないかということで、ハーブボランティアの人とお話しされてると思います。そういうこともやっているのでも、これにうまく含めていただいて、全部をみどりのフォーラムではできなくて、分割することになっていくと思いますが、一連の活動として見えてくるといいのかなと思いました。木下先生はいかがでしょう。

委員

今、柳井先生から説明いただいたことで十分だと思いますが、一言付け加えるとすれば、先般のフェスティバルのときも、「雨水を有効活用できたらいいですね」というご意見がかなりあったものですから、雨庭をご自宅の庭に作るようなことをもっと進めていきたいなと思っています。見本庭を金ヶ作育苗圃に作らせてもらって実験等をしながら普及啓発ができればいいなと考えています。

会長

ちなみに温室は仕様が決まっております、間口が5.4m、奥行きが15m、高さは2メートル立ち上がって一番高いところで5.41mとなっています。それからもう1つ言うと、私のところ、木下先生のところ、岩崎先生のところ、でプロジェクトをやっていくんですけど、どうしてもそれぞれやっていると自分の得意分野のところになってしまう。それをプランとして、どういうふうに提案していくのが大切な要素になっていて、これを大学院の演習で取り上げて、学生、大学院生に提案してもらいたいことを考えてます。それが後期の授業で10月から2月ぐらいになります。ですので、例えば演習と組み合わせてワークショップでプランを作っていく上で、いろんな人たちの話しを聞くことも大事なことを考えています。これはプロジェクト演習という科目で、それを後期に10月以降展開するのも資源というか、こちらもいろんな人たちの話しを聞かないといいプランができないし、学生にそういう経験を積ませたい気持ちもあるので、お互いウインウインでうまく繋げていけるといいかなというふうに思いますので、よろしくお願いします。

金ヶ作育苗圃と囲いやまで企画されている、このみどりのフォーラムをやっていくっていうことをご了解いただいて、引き続きご検討をサロン部会の方でお願いしたいと思っています。

議事4) その他

会長

ぷらっと子供の森というのが開催されましたのでご紹介をお願いします。

事務局

ぷらっと子供の森の開催につきましては、7月9日、日曜日の午前10時から午後1時まで金ヶ作の囲いやまの森で開催されました。

詳細な報告につきましては、藤田隆委員にお願いしたいと思います。

委員

資料5がぷらっと子供の森の写真報告になります。

参加者が18名で、子供が11名でした。子供が100円、大人が200円のお金をいただきましたので、合計で2500円になりました。

スタッフは里やま応援団から13名出て参りました。

内容は、ハンモック、機織り、竹切り体験、等々がありました。

時間は朝10時から13時までの3時間としました。短い時間で帰る方は少なく、ずーっといる家族がそこでお昼を食べちゃおうっていう感じで割と長時間楽しんでいる方が多かったです。

参加者18名が多いか少ないかという、私たちスタッフ側としてはとてもやりやすいと感じました。このぐらいの規模でみんなが集まり、子供が森の中で遊ぶっていうのを大人が見ている。

大人は転倒しないかなとか、そういうことに目を向けながら、子供は一生懸命遊べるっていう環境は、やっぱり大事だねっていうふうに再認識をしました。

竹切りは一本切ったんですけど、子供2人とお母さんにノコギリを体験してもらいましたので、それはいいキッカケになったかなと思います。

会長

千葉県が千葉県内のいろんな里山保全活動を表彰するという里山アワードを始めまして、その第1回目の大賞が、松戸市の活動になっています。

その記念ということで、何かシンポジウムをやろう考えていたのが延び延びになって、去年度の3月の終わり頃にやりました。

その時の議論で、子供たちが自由に遊ぶのを見守るみたいなスタイルっていうのも必要なんじゃないかというようなことが問題意識として上がりまして、それを形にした企画になります。

1度6月に企画したものが雨で流れたので7月に開催したのですが、定期開催を考えていて次回は9月10日になります。場所は同じ囲いやまの森となります。

委員

駐車場はあるのでしょうか。

委員

金ヶ作育苗圃が隣にあるので、そこを使わせていただくのと、熊野神社が隣にあるので、あらかじめお願いしておけば、そこも使えます。

委員

参加者も車で来たりするのでしょうか。

委員

今回は2組、3組が車で来ていました。

参加者の内訳はインスタグラムからきた人が1組、通りがかりで1組、口コミ5組、家族連れの単位でいうと7組18名でした。

会長

宣伝して来場者が増えてしまうと、元々のコンセプトからずれてしまう。

委員

囲いやまの森の遊びの森が余りにも盛大なので、みんなが世話をしたがる傾向にあります。

僕らがあの中において、僕らが遊んでるところに入ってきてもらうというコンセプトで、簡単にできるんだよっていうのを囲いやまの森で重ねて実践して他の場所でもやりたいですね。

会長

報告書を見ていると、私の印象では大分準備されているように感じます。

委員

みんな当たり前のように準備している感じです。

柳井会長

無理なくやっていただければと思います。

21世紀の森と広場管理事務所

21世紀の森と広場より1件のご案内がございます。

件名：自然展

期間：7月22日から8月31日まで

時間：午前9時から16時まで

場所：21世紀の森と広場 パークセンター

内容：自然に触れていただける体験コーナーや展示コーナー、各種講座などを用意しています。

みどりと花の基金

みどりと花の基金より1件のご案内がございます。

件名：あさがお展

期間：8月3日から8月7日まで

時間：午前7時半から10時半まで

場所：金ヶ作育苗圃

内容：約100種類程度の様々なアサガオの展示をいたします。

事務局

次回の開催日程でございますが、9月下旬から10月上旬を予定しております。

会長

これで本日の委員会を終了します。